

日本国際文化学会創立10周年記念特別全国大会日程

主催：日本国際文化学会

共催：名桜大学、文教大学湘南総合研究所

期間：2011年7月1日～3日

会場：名桜大学（沖縄県名護市）

特別大会実行委員長 仲地 清（名桜大学教授）

大会準備委員長 奥田 孝晴（文教大学教授）

7/1（金）

15:00-16:00 常任理事会

16:00-17:00 理事会

18:00-21:00 基調講演およびシンポジウム企画1「東アジア共同体と国際文化学」

7/2（土）

9:00-11:00 自由論題

11:15-13:15 共通論題

13:30-14:00 総会

14:00-15:00 フォーラム「国際文化学教育のテキスト 現状と課題」

15:15-17:45 シンポジウム企画2「グローバル化する若者文化と国際文化学」

18:30- 情報交換会

7/3（日）

9:00-11:00 自由論題

11:15-13:15 共通論題

13:45-15:45 シンポジウム企画3「人の移動と国際文化」

●共通論題（予定）*

7/2（土）

11:15-13:15 共通論題

○ワークショップ—地域に根ざした食文化の創造

○マッカーシズムと太平洋問題調査会（IPR）

○変容する国際秩序と文化の展開

7/3（日）

11:15-13:15 共通論題

○草原の国際文化—グローバリゼーションの源流を求めて

○変革期における世界像と日本像の実相—幕末・維新时期を中心に

○「こどものにわ」の舞台裏

●自由論題（予定）**

7/2（土）

9:00-11:00 自由論題

- ・字幕翻訳における文化的要素の翻訳ストラテジー
- ・英語の一人称主語省略について
- ・映画「戦場のメリークリスマス」とその背景
- ・要通訳裁判での訳出における異文化問題と裁判員への影響について
- ・ビクトリーガーデンとある日本人家族について-関係性の中における「自己」と「他者」を巡る一考

察

- ・A study of the Policies and Activities for Cultural Heritage Protection during World War II
- ・パブリック・ディプロマシーを考える－鶴見祐輔の活動を中心に
- ・朝河貫一と「日本イェール協会コレクション」
- ・イギリス国際政治学者の秩序認識－力、法、慣例に焦点をあてて
- ・存在証明というアンチノミー（二律背反）－「国際共同体」を論じるための条件
- ・満洲イメージとその変容
- ・文化的多様性と向き合うドイツ－「ザラツィン論争」を手がかりに（仮）

7/3（日）

9:00-11:00 自由論題

- ・福澤諭吉の思想詩
- ・東ドイツと西ドイツの交流
- ・韓国のガイドブックに見る東京の観光空間－「ドラマイン東京」「マニアック東京」の特別な場所
- ・「歌い継がれる童謡 ー――まど・みちおと尹石重の作品を手がかりに」
- ・北海道におけるアイヌ学習の現状
- ・国語教材『温かいスープ』にみる国際性の語り
- ・旧制中学校における「校友」共同体形成とメディアとしての校友会雑誌の役割
――運動部活動の記述と校友の条件から――
- ・「サッカーという名の戦争」－W杯予選を巡るエジプトとアルジェリアの騒動をてがかりに－
- ・「コミュニティ」と「ネットワーク」からとらえた帰国生の境界

注：

- * 当初会場における予定であり変更することがあります
- ** 当初会場における予定であり変更することがあります

2011年度国際交流基金助成事業

日本国際文化学会創立10周年記念特別シンポジウム

「戦略としての文化と国際文化学：3.11後の展望」

主催：日本国際文化学会

共催：名桜大学、文教大学湘南総合研究所

後援：国際文化会館

助成：国際交流基金

期間：2011年7月1日～3日 会場：名桜大学（沖縄県名護市）

●基調講演 「災害復興と沖縄の国際文化」

日時：2011年7月1日 金曜日 18時～18時半

講師：瀬名波 榮喜 名桜大学学長

謝辞と進行：日本国際文化学会会長・若林 一平

●企画1 「東アジア共同体と国際文化学」

日時：2011年7月1日 金曜日 18時半～21時

趣旨：今日の東アジア共同体はかつての「大東亜共栄圏」の悪夢とは全く異質なものである。東アジアは既に新しい形で発展を遂げており、共同体概念そのものがそれぞれに自立した実体を有する東アジアの諸国・地域の指導者たちから提唱されている。われわれは共同体から逃避し孤立するのではなく、議論に参加し現実に進展している東アジア共同体について多様なアプローチにより解明し、そのことにより共同体の未来に貢献する文化の戦略を展望したい。

問題提起：

ジャン・インスン（ソウル国立大学教授）

問題提起「東アジア共同体と国際文化：過去から未来へ」

パネリスト

マリコ・アサノ・タマノイ（UCLA教授）「記憶の地図から共同体を透視する」

濱下 武志（東京大学名誉教授）「東アジア世界の地域ネットワーク」

李 微（中国社会科学院日本研究所長）「日中文化対話と東アジア共同体」

陳 光興（台湾交通大学アジア太平洋文化研究センター教授）「方法としてのアジアと文化研究」

コメンテーター

田川 博己（株式会社ジェイティービー代表取締役社長、文教大学客員教授）「交流文化事業としての観光業の今日的課題」

モデレーター

平野 健一郎 日本国際文化学会創立会長/早稲田大学・東京大学名誉教授

●企画2 「グローバル化するポピュラーカルチャーと国際文化学」

日時：2011年7月2日 土曜日 15時～17時半

趣旨：日本発の若者文化は既に世界規模で定着している。manga/otaku/animeそしてkosupureが世界語になり、新しい変貌を遂げつつある。さらにメディアとしてのnintendoの存在を指摘できる。これらの文化は下位の（サブの）文化であるどころかこれまでメインストリームと考えられてきた文化そのものをも変えてゆく潜在力すら今日では指摘されてい

る。新しい取り組みを交えながら、マンガやオタクのグローバル化を通して文化の戦略を構想する手がかりを求める。

問題提起：

フレデリック・L・ショット（米国、作家・翻訳家）

問題提起「グローバル化するポピュラーカルチャー、現在そして未来」

パネリスト

化濱（東京大学院生）「現代中国におけるコスプレ文化」

森川嘉一郎（明治大学准教授）「国際マンガ図書館の文化学」

鶴飼正樹（京都文教大学准教授）「大衆芸能の戦略とは」

コメンテーター

高田 哲雄（文教大学情報学部教授）

ジャン・インスン（ソウル国立大学教授）

モデレーター

白石 さや（日本国際文化学会常任理事、東京大学教授）

●企画3 「人の移動と国際文化」

日時：2011年7月3日 日曜日 13時～15時半

趣旨：近代国民国家体制のもとで、ナショナリティと文化の間には人為的な結びつきが強められたが、本来、両者間には必然的な結びつきがあるわけではない。にもかかわらず、国家が「有益な」文化を自らの領域に取り込もうとする動きは絶えない。だからこそ、このような国家の思惑を乗り越える文化のダイナミズムを支える人の移動へ注目する意味がある。われわれが生きるアジアを現場として人の移動がもたらしている文化のダイナミズムのフロンティアに迫る。

パネリスト

趙 貴花（成蹊大学アジア太平洋研究センター研究員）「若者の移動とアイデンティティの構築」

高 鮮微（文教大学非常勤講師）「在日済州島出身者の生活過程」

カルロス マリアレイナルース（龍谷大学准教授）「高齢社会日本における外国人介護労働者」

仲地 清（名桜大学教授）「国際移動と琉球・沖縄」

コメンテーター

マリコ・アサノ・タマノイ（UCLA教授）「帝国時代の満洲の研究から」

山脇 千賀子（文教大学准教授）「人の移動と文化のダイナミズム」

モデレーター

仲地 清（名桜大学教授）

日本国際文化学会創立10周年記念特別全国大会
参加可否ご連絡のお願い
ならびに交通・宿舎のご案内

今回は会員メーリングリスト作成のため
参加の可否にかかわらず必ずお返事をください。

ご回答送付先：jsics2011@gmail.com

メール送信期限：6月15日

メール題名：参加します（あるいは「できません」）【お名前】
メール本文：

- 1 お名前：
- 2 所属：

== 参加される場合は以下にお答え下さい ==

- 3 大会参加予定日を残してください
(参加費 一般会員3,000円/学生会員1,000円 特別シンポ含む)
7月1日 7月2日 7月3日
- 4 昼食の弁当を希望する日を残してください：
7月2日 7月3日 (お茶付き700円予定・当日払)
- 5 情報交換会(7月2日) 参加のときは残してください：参加する
(会費 一般会員5,000円/学生院生2,000円)

■「参加費+情報交換会費」は同封の払込料金加入者負担の用紙で6月15日までに払い込んでください。受領証は公的領収書として使用できます。

■ 交通案内：

名桜大学

〒905-8585 沖縄県名護市字為又1220-1

TEL：0980-51-1100 (代) FAX：0980-52-4640

高速バス

那覇空港到着ロビーを出て、左手のバス乗り場から高速バス(111番)に乗車します。

【終点の名護バスターミナルまで】

所要時間：約1時間45分、バス乗車料金：2,130円

■ ホテル・航空券と合わせて楽天トラベル等から予約してください
ANA楽パック・JAL楽パックが便利です 早めのご予約を

下記2軒はいずれも会場までタクシー・ワンメーター前後です

・ゆがふいんおきなわ（情報交換会会場です）

朝食付き5,000円がおすすです。

沖縄県名護市宮里453-1

TEL0980-53-0031

FAX0980-53-7193

・スーパーホテル沖縄・名護

2名利用で2,440円の設定あり（朝食無料）

沖縄県名護市宮里1018

TEL：0980-50-9000

FAX：0980-50-9001

・名護市には他にも10軒ほどの宿舎があります

日本国際文化学会第10回全国大会 自由論題および共通論題プログラム

2011年7月2日

9:00~11:00 自由論題

自由論題1

司会 発表	与那覇恵子 (名桜大学)	所属	論題
河原清志	立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科博士後期課程		字幕翻訳における文化的要素の翻訳ストラテジー
関根理恵	国立民族学博物館		A study of the Policies and Activities for Cultural Heritage Protection during World War II
水野真木子	金城学院大学文学部教授		要通訳裁判での訳出における異文化問題と裁判員への影響について

自由論題2

司会 発表	川村陶子 (成蹊大学)	所属	論題
角田 和広	明治大学大学院 政治経済学研究科 政治学専攻 博士後期課程		イギリス国際政治学者の秩序認識—力、法、慣例に焦点をあてて
上品一馬	早稲田大学「太平洋問題調査会」研究所客員研究員		パブリック・ディプロマシーを考える—鶴見祐輔の活動を中心に
川村陶子	成蹊大学文学部国際文化学科 准教授		文化的多様性と向き合うドイツ—「ザラツィン論争」を手がかりに (仮)

自由論題3

司会 発表	松居竜五 (龍谷大学)	所属	論題
安田 忠典	関西大学人間健康学部		神社社会反対運動における南方熊楠の視点—自然保護以外の要素に着目して—
大庭 弘継	南山大学総合政策学部		存在証明というアンチノミー (二律背反) —「国際共同体」を論じるための条件
松居竜五	龍谷大学国際文化学部准教授		映画「戦場のメリークリスマス」とその背景

自由論題4 名桜大学国際文化教育学系による特別セッション「名護市からの文化発信」(準備中)

司会 発表		所属	論題

11:15~13:15 共通論題プログラム

共通論題1: ワークショップ—地域に根ざした食文化の創造

司会 発表	横川 潤 (文教大学)	所属	論題
横川 潤	文教大学国際学部准教授		基調報告: 食のグローバル化とは異なる角度からの食文化創造の試みについて
横川ゼミ学生チーム	文教大学国際学部		実践報告: 文教大学横川ゼミ+(株)濱田屋+茅ヶ崎市農家による「茅ヶ崎文教弁当」商品開発の試み
道畑 美希	東洋大学国際地域学部国際観光学科講師		コメント: レストランマネジメント、メニュープランニング、地域産品のマーケティング、ブランディング、等の視点から

共通論題2：変容する国際秩序と文化の展開

司会 発表	富川 尚 (敬和学園大学)	所属	論題
富川 尚	敬和学園大学人文学部准教授		変容する国際秩序と文化の展開
山本 直	北九州市立大学准教授		E Uにおける「人権文化」の醸成と現実
伊藤 豊	山形大学准教授		移民同化論の肯定的考察
馬原 潤二	同志社大学助教		欧州統合時代のドイツ・ナショナリズム——憲法愛国主義と文化愛国主義との相克

2011年7月3日

9：00～11：00 自由論題

自由論題5

司会 発表	寺田 元一 (名古屋市立大学)	所属	論題
本多 善	龍谷大学大学院国際文化研究科 博士課程後期		ジャパニーズ・アメリカンとディアスポラ
金 英美	法政大学大学院 国際日本学 研究科 博士課程後期2年		戦後日本におけるキリスト教系大学の数量的変容
渋谷鎮明	中部大学国際関係学部・教授		韓国のガイドブックに見る東京の観光空間—「ドラマイン東京」「マニアック東京」の特別な場所

自由論題6

司会 発表	木下 資一 (神戸大学)	所属	論題
張晟喜 (ジャン ソンヒ)	法政大学院・国際文化研究科・博士後期課程2年		「歌い継がれる童謡 —まど・みちおと尹石重の作品を手がかりに—」
大山万里子	龍谷大学大学院国際文化研究科博士後期課程		北海道におけるアイヌ学習の現状
小西正雄	鳴門教育大学大学院教授		国語教材『温かいスープ』にみる国際性の語り

自由論題7

司会 発表	植野 雄司 (ブール学院大学)	所属	論題
堤 ひろゆき	東京大学大学院教育学研究科・博士課程		旧制中学校における「校友」共同体形成とメディアとしての校友会雑誌の役割——運動部活動の記述と校友の条件から——
小椋千裕	筑波大学大学院人文社会科学研究科国際公共政策専攻後期		「サッカーという名の戦争」—W杯予選を巡るエジプトとアルジェリアの騒動をてがかりに—
井田頼子	東京大学大学院教育学研究科博士課程		「コミュニティ」と「ネットワーク」からとらえた帰国生の境界

自由論題8

司会 発表	若林 一平 (文教大学)	所属	論題
若林 一平	文教大学国際学部教授		核の文化とフクシマ
奥田 孝晴	文教大学国際学部教授		テニアンからフクシマへ—ブルトニウムロードの向こうにあるもの
川村 湊	法政大学国際文化学部教授		原発と原爆の文化学—ヒロシマ・ナガサキ・フクシマ—